

2025 ASIAN ROWING Championships

Report 4 (10/18,19)

10月18日(金)

アジア選手権3日目。この日はレースのない日でしたので、朝の比較的气温が上がらない時間帯に調整練習を行い、明日のFinalレースに備えました。



参加各国の旗が東からの風にはためいております。



トレーニングクルーで込み合う出艇栈橋。



西川コーチとミーティングを行うM2xクルー。
(写真左から)B 宮口選手(NTT 東日本)、
S 櫻間選手(NTT 東日本)



出艇するM1x武田選手
(関西電力)



出艇するM2-クルー(写真左から)S 蛭川選手(明治安田)、B 牛田選手(明治安田)



ゴール前のスタンド裏のスペースにほとんどの施設が集約されている、非常にコンパクトな会場。強い日差しと日本では年に数回しかないような高い湿度により、晴れると非常に暑さを感じますが、スタンド上部が日陰になりやすく、風も抜け比較的温度をしのげる場所になっております。

10月19日(日)

大会最終日。各種目のFinalレースが行われる日です。雨の予報から一転、日差しも湿度も高く暑さが厳しい日となった中、各クルーは国の代表として力を尽くして戦い抜きました。

M1x Final B

逆風の中スタート。スタートからフィリピンと日本が先行し、カザフスタン、韓国、台湾、クウェートが追いかける展開に。500mの段階で、1位フィリピン、2位日本と3位カザフスタンとの差が、5秒近く開き、先頭争いは日本とフィリピンの一騎打ちの様相となってきた。第2クォーターではほぼ差が変わらない中で踏ん張り続け、第3クォーターで並んで1500mの通過で逆に1秒差をつける。ラストクォーター、日本もフィリピンも強い逆風の中、力を振り絞り一進一退のスパート合戦になるが、制したのは日本で1位でゴール。最終日の最初のレースで日本代表チームに良い流れを持ってくる重要な役割を果たした。



【写真上】朝のトレーニングの時間帯に一度水上に繰り出すM1x。

【写真左】ゴール前、追いすがるフィリピンを突き放すM1x 武田選手(関西電力)

M2x Final A

スタートからインドネシア、日本、インドが抜け出し、ウズベキスタン、イラク、タイが追う展開に。インドネシアは、U23世代の若いクルーで、若さと恵まれた体格で逆風を切り裂くようにグイグイ艇を進めるが、日本もピタリとついて離れない。500mは1位インドネシア、2位日本が並ぶように通過し、続いて3位インド、4位ウズベキスタン、5位イラク、6位タイの順で通過。第2クォーターに入り日本が安定したスピードを保ち続けると、インドネシアが少しずつではあるが勢いを失ってきた。1000mの通過では1位日本、0.5秒差で2位インドネシア、

3位インド、そしてここでイラクが4位に浮上し、ウズベキスタンが5位に後退。第3クォーターではインドがインドネシアをかわし、さらにイラクがインドネシアに並びかけたところで1500mを通過。ラストクォーター、2位インド、そしてインドネシアをかわしたイラクが猛然とスパートをかけ日本に迫ろうとするが、日本も落ち着いて適切なスパートを入れ突き放し1位でゴール。見事アジア48億人の頂点に立つこととなった。



笑顔で出艇するM2x クルー(写真左から)B 宮口選手(NTT 東日本)、S 櫻間選手(NTT 東日本)



追いつがるインド(写真手前)をラストスパートで突き放すM2x クルー(写真奥:左から)B 宮口選手(NTT 東日本)、S 櫻間選手(NTT 東日本)

M2- Final

スタートでは横並びでレースが始まるが、少しでも緩めたら置いていかれる争いの中、体格に勝るウズベキスタンがじりじりと主導権を奪う展開でレースが進む。500mを1位ウズベキスタン、そこから2.34秒離れて香港、カザフスタン、インド、日本、ベトナムがほぼ横一線で追いかける。第2クォーターに入ってもウズベキスタンの優位は変わらず、追いかける香港、カザフスタン、インドの追撃をかわしながら終始リードを保ちながら1位でゴール。日本は、ベトナムとの5位争いを繰り広げ、ラストクォーターで差を詰めるもわずかに及ばず6位でゴール。海外遠征が初めてのペアにとって、国の威信をかけた戦いというものを肌で感じるかけがえのない経験となった。



【写真上】M2-出艇の様子。

【写真右】前に行くベトナム(写真奥)を力を振り絞り詰めていくM2-クルー(写真手前:左から)B 牛田選手(明治安田)、S 蛭川選手(明治安田)



Medal Ceremonies

M2x

S 櫻間 達也 選手 (NTT 東日本)

B 宮口 大誠 選手 (NTT 東日本)



10月19日(日)のレースをもって2025年アジアローイング選手権日本代表チームのレースは全て終了いたしました。日本からご声援をいただいた皆様、また現地に駆けつけてご声援いただいた皆様、本当にありがとうございました。

結果はM2xがアジアの頂点に立ったことや、日本国内では中々感じる事のできないような状況に見舞われても、今置かれている状況の中で踏ん張ること、国の威信をかけた厳しいレースを経験することにより、今後この国の国際競争力を高めていく上で中心になるであろう選手たちにとって、かけがえのない経験となりました。

また、日本からも審判員や大会役員として参加していただいた方々や、選手を受け入れる約1週間前に開催が危ぶまれるほどの洪水被害にあいながらも、大会成功に向け笑顔で頑張ってくれた地元ベトナム・ハイフォンの方々に心より感謝申し上げます。特に、日本代表チーム専属ボランティアとして文字通り身を粉にして昼夜走り回ってくださったPandaさん(通称)には、多大なるサポートのみならずかけがえのない思い出までいただきました。本当にありがとうございました。

最後に今回の遠征にご協力いただきました全ての皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

「ご声援ありがとうございました」

～2025年アジアローイング選手権日本代表選手団一同～



後列左より、中上 仰 チームリーダー(後半)、佐藤 芳則コーチ(明治安田)、Trần Bảo Ngọc(通称 Panda: 日本代表チーム専属ボランティア)、森山 修 チームリーダー(前半)、西川 正芳 コーチ(NTT 東日本)

前列左より、M2x 宮口 大誠 選手(NTT 東日本)、M1x 武田 匡弘 選手(関西電力)、M2x 櫻間 達也 選手(NTT 東日本)、M2- 蛭川 暢之 選手(明治安田)、M2- 牛田 翔太 選手(明治安田)